

兵庫県立粒子線医療センターの建物及び土地の活用、
新たな重粒子線治療施設の設置・運営に関するサウンディング型市場調査の実施結果概要

1 調査の目的

粒子線医療センターの治療停止後の建物及び土地の有効活用の可能性や、民間事業者と連携した新たな重粒子線治療施設の設置・運営の可能性について、市場性等を把握したうえで検討していくため、民間事業者等へのサウンディングを実施。

2 調査の実施概要

- | | |
|------------|---|
| (1) 実施期間 | 申込：令和8年1月19日(月)～2月20日(金)
対話：令和8年3月3日(火)～3月19日(木) |
| (2) 調査方法 | 書面による質問票の回収及び対面・オンラインによる対話 |
| (3) 参加事業者数 | 4社 |

3 主な意見・提案内容

(1) 既存の建物・土地の活用

既存の病院棟を活用して、医療等の提供が可能か検討する意見があった。

〔想定する事業スキーム〕

- ・貸借もしくは借地権の設定を想定する意見があった。

〔その他意見〕

- ・事業者に対して、賃借料の減額など何らかの経済的支援が必要である。
- ・既存施設を活用する場合、公共交通の利便性向上や商業施設の誘致が必要である。

(2) 新たな重粒子線治療施設の設置・運営

重粒子線治療は、将来性のある治療法として評価できる一方、採算性を確保するためには一定のハードルがあるという意見が多かった。

〔想定する立地等〕

- ・現施設よりも、県立がんセンター及びその周辺用地について、活用の可能性を検討する意見が多かった。

〔想定する事業スキーム〕

- ・借地、SPC の設置、PFI 方式（BOT 等）、自社運営など複数の意見があった。

〔その他意見〕

- ・事業推進には何らかの経済的・人的支援が必要となるため、国や県には協力してほしい。
- ・新施設を民設民営とする場合、運営できる医療法人の確保が課題となる。